

口唇口蓋裂センターについて

平成31年4月に開設した口唇口蓋裂センターについてご紹介します。



■説明は
矯正歯科
助教
渡邊 佳一郎
(わたなべ けいいちろう)

■お問い合わせ先
矯正歯科
Tel: 088-633-7373

口唇口蓋裂について

上唇から口の中にかけて本来ならくっついて産まれてくるはずが、くっつかずに割れたままの状態
で産まれてくるのが口唇口蓋裂です。口唇口蓋裂のために、哺乳しにくい、鼻と口腔がわかれてい
ないため発音しにくくうまく話せない、滲出性中耳炎になりやすい、歯並びやかみ合わせが悪いなど
の問題が出てきます。

口唇口蓋裂センターについて

口唇口蓋裂の治療には複数の診療科が携わるため、診療科間の連携が大変重要となります。徳島大学病院では、これまで以上に連携を深め、医師や看護師をはじめとする複数の職種から意見を取り入れ、1つのチームとして治療を行えるよう四国初の口唇口蓋裂センターを立ち上げました。

口唇口蓋裂の治療は、出生時から成人するまで長期に亘り、様々な診療科を回り、様々な治療を行うことになるので、患者本人やそのご家族の負担や不安は大きいです。センター内で連携を強めたことにより、診療科が違えば言っていることが違うという事態は起らず、どの診療科でも同じ治療目標を掲げているため、一貫した治療を受けることが可能となり、それが患者さんやご家族の安心につながると考えています。

また、定期的に症例検討会を含むセンター会議や勉強会を行うことで、治療方法やその結果について情報をセンターで共有し、治療計画の立案、遂行にも役立てています。

さらに、本院のような口唇口蓋裂治療をチーム医療として取り組んでいる医療機関が全国から集まる会議や勉強会にも参加し、そこで得た情報を当センター内で共有することで、本院の治療のレベルをさらに向上しようと努めています。

患者さんへひとこと

口唇口蓋裂の治療は長期にわたって続くことになるので、疲れてきたり、思い悩んだりすることがあるかもしれませんが、1人で悩まずにお気軽にご相談ください。口唇口蓋裂センターで連携を取って一貫した治療を行っていき、ご心配を少しでも和らげ、安心して治療を受けていただけるような環境づくりを行うように努めます。

診療科の枠組みを超えたチーム医療

口唇口蓋裂の治療は、複数の診療科が関わるため、診療科間でうまく連携が取れていないと、実際に各診療科が治療するまでどうしてもタイムラグが発生してしまいます。しかし、当センターは連携がしっかり取れているので、非常にスムーズな対応が可能となりました。例えば、赤ちゃんがミルクを上手に飲むため、また顎の形を整えるために、口の中にHotz床を装着する必要があります。Hotz床を装着するまでに赤ちゃんが産まれてから1ヶ月かかることも過去にはありましたが、現在当センターでは、産まれる前から産科が形成外科に連絡し、形成外科医が赤ちゃんの母親に今後の治療について説明を行うことで、産まれた当日に矯正歯科医が赤ちゃんの口の中の型を取り、翌日にはHotz床を装着することができるようになりました。他にも図に示すように多くの診療科が適切な時期に連携の取れたチーム医療を行っていくことで、患者さんに最適な医療を提供することを心がけています。

治療の流れは図の通りです。

